２０２４年5月３１日（金）

老球の細道８０２号

５月の言葉

会津バスケットボール協会　　室　井　冨　仁

NBA、B リーグ、高校地区、県大会、バスケットボールは最高潮。下克上、アップセットの嵐である。勝負はやってみないとわからない。昨日と今日は別人、別チームであることを肝に銘じなければならない。孫が歌う TV アニメ『最強王者』の主題歌に「♬今日の勝者も油断をすれば敗者♬今日の敗者も技を磨けば明日は勝者♬」の歌詞がある。その通り。

遂に孫達がミニバスケットを始めた。指導者、保護者の労苦がいかに大変であるかを知らされた。孫達もバスケと学校の両立で疲労困憊になりながら、なんとか５月を乗り越えた。

１・テレビから

◆「生ある限り”忍耐“は私の指針としなければならない」〈NHK『名曲アルバム：ベートーベン・ピアノソナタ第３２番』ベートーベンの遺書〉： 深い苦悩や報われない愛、孤独の悲しみなどをベートーベンは音楽に昇華させた。長い時間、森を散策して精神の回復、曲についての構想を思索したという。私も田んぼ道を散策してドリルのアイデイアを練る。

２・読書から

◆「表の光の明るさは、いつだって陰の暗さにささえられているのではないか」〈『オンナコドモ時代の思念』関本庄一著：会陽新社〉： 喜多方女子高校時代に同僚だった先生の書いた本である。美術の先生だったのに文学の才能があったとは。人の才能は果てしない。

◆「強くなりたいと思っている時が最も強く、強くなったなと思った時は弱くなり始めている」〈『チームを創る』山崎純男：日本文化出版〉： 「人生の至楽は、成るか成らぬかの苦しい境にある」と豊臣秀吉も語っている。慢足が下克上の餌食となる。

◆「天職と決めて尺取り虫歩む」〈朝日：朝日川柳〉：何事もすぐに忘れてしまう。ノートに書きながらひとつひとつ覚えるしかない。栄光への道限りなく遠い。今日の１歩で近づく。

◆「回るろくろの動かぬ芯になれ」〈朝日：ひと：沈壽官〉「一本の芯が無ければ　蠟燭に火は灯らない」〈朝日：人生：加藤登紀子のひらり一言〉： 周囲を動かし、周囲に情熱の炎を灯す指導者の育成が急務。１人になっても信念を貫く指導者よ、会津に早く出てこい。

◆「資金力が強いチームをつくるのは真理だ。ただ、スポーツの面白さは、それを覆す者が現れることにもある」〈朝日：Ｓｉｄｅ　ｃｈａｎｇｅ〉： お金をかけて優秀なコーチ、優秀な選手を集めたチームが勝つのは当たり前。その歴然とした差を、情熱と創意工夫、そして努力でひっくり返す。それがスポーツ勝負の醍醐味である。

◆「神様がたった一度だけ　この腕を動かして下さるとしたら　母の肩をたたかせてもらおう　風に揺れる　ぺんぺん草の実を見ていたら　そんな日が　本当に来るような気がした」〈朝日：天声人語〉：先日亡くなった詩人画家星野富弘さんの母の日にあたっての詩である。かつて星野さんの自宅で彼が口に筆をくわえて絵を描く姿を見た。当時の私のちっぽけな苦しみが恥ずかしかったことを思い出す。５月２９日、お別れ会。合掌。